溥猷瑠藝選集

第一輯

淨瑠璃趣味同人諸君へ急告

私共が常から要求して居りました淨瑠璃外題集が蒙人愚先生の努力で漸く輯錄されました。見臺開き、改名披露、追善等の場合、其の得意の語り物又は寫眞等を表紙でも內部へでも印刷して知人へ配付しますれば忠孝仁義の國粹道を發揚する上からも時節柄有意義かと存じます。一部實費金二十錢ですが部數により萬事御相談を致します。至急御申越を願ひます。

大阪市南區疊屋町四二番地
浪花名物 淨瑠璃雜誌社

宮田蒙人愚編

淨瑠璃藝題集

第一輯

上は淨瑠璃の本元御靈文樂座燒失の際燒け殘りし唯一の國寶的記念額

（裏面に燒跡歴然たり）

下は四ツ橋文樂座前に於ける紋下竹本津太夫氏と横山大觀氏筆の紋下額

はしがき

我日本的國粹思想を基調として社界を指導す可き重責は、無論時の政府であらねばならぬ。

イヤ民政だ、イヤ政友だ、イヤ何黨だと云ふて時の天下を取つて見ても司法權が政黨内閣とドレ合い世帶の離れない間は政治でも鼻つまみだ。

兎角、鼻つまみの今の世の色々の弊害やら惡思想を淨化し統一するには、我國古來よりの傳統的國粹藝術である「淨瑠璃」の普及宣傳に限る。

即ち**忠孝仁義**の大道も一棹の三味線の音律と融合して簡單に、そして通俗的に善く分るように仕組まれてある。

語り手が上手だつたら鬼人も泣き出す、下手だつたら笑ふ丈けでも德だ、笑ふ門には福が來ると云ふから。

是れが我淨瑠璃黨の政黨を超越した誇りである、つまり國體を擁護し、家庭を圓滿にする大和民族としてのブライド藝術でなくて何であらうか。

此意を宣傳したい爲に小閑を得て此冊子を纒めたのです杜撰の點は御叱正下さい、只座右に備へて國粹的古典藝術「淨瑠璃」を忘れ無いで戴けば夫れで滿足です。

そして紋下竹本津太夫、竹本古靱太夫、鶴澤友次郎、鶴澤道八其他の諸君が中心で此初春に蓋を開けた四ツ橋文樂座を可愛がつて下さる事も、取りも直さず國家愛に燃ゆる諸君の誇りであらうと思ひます。

昭和五年如月の末

天滿の住人　宮田蒙人愚

終りに本書は竹本津太夫、竹本陸路太夫、樋口君の應援及「近世邦樂年表」其他三、四の書册をも參考として輯錄された事を感謝する。

索引と凡例

い（ゐ）……（一）
は……（三）
に……（六）
ほ……（七）
へ……（八）
と……（八）
ち……（八）
り……（一〇）
を（お）……（一〇）
わ……（一四）
か……（一四）
よ……（一七）
た……（一八）
そ……（二一）
つ……（二三）
な……（二三）
ら……（二四）
む……（二四）
う……（二四）
の……（二五）
く……（二五）
や……（二六）
ま……（二八）
け……（二八）
ふ……（二九）
こ……（三〇）
え（ゑ）……（三三）
て……（三三）
あ……（三三）
さ……（三五）
き……（三七）
ゆ……（三九）
め……（四〇）

み……（四一）　も……（四六）　道行と景事……（四九）
し……（四一）　せ……（四七）　滑稽淨瑠璃……（六〇）
ひ……（四四）　す……（四八）

本書中藝題上部の

◎ 印は比較的多く語られつゝあるもの

○ 印は時々語られるもの

△ 印は餘り語らぬもの

藝題の下方に七又五とあるは七行本及五行本のある事を示す。

故に五とのみあるは五行本丈けある譯である

淨瑠璃藝題集

いの部

藝題　年號　作者

◎生寫朝顔話（朝顔日記の事）　七五　天保三年　近松德叟事　山田案山子

宇治川の段　明石舟別の段　大磯揚やの段　摩耶ヶ嶽の段　濱松小家の段　笑ひ藥の段　宿屋の段

◎伊賀越道中雙六　七五　天明三年　近松半二　竹本座　近松加作

五ツ目婚禮の段　六ツ目沼津の段　同切平作腹切の段　七ツ目新關所の段　八ツ目關崎の段

◎妹脊山婦女庭訓　七五　明和八年正月二十八日　近松半二他三名　竹本座　後見三好松洛

序切ゑみじ館の段　二ノ中三笠萬歳の段　二ノ切芝六住家　三ノ口花渡し　三ノ切山の段かけ合　四ノ口井戸替此奥杉酒屋　四ノ中饗七使者　四ノ切竹に雀

○井筒業平　河内通　七五　享保五年三月三日　竹本座　近松門左衛門

三ノ切初瀬寺の段

◎一谷嫩軍記　七五　寶暦元年十二月十一日　豐竹座　豐竹甚六、難波三藏、並木宗輔、淺田一鳥、並木正三、浪岡鯨兒

序切敦盛初陣　二ノ口小次郎先陣　二ノ切中須磨浦組打　二ノ切口太五平の段

二ノ切流しの枝の段　三ノ口石屋實引　三ノ切熊谷陣屋

○有職鎌倉山　七五　寛政元年八月吉日　北堀江市の側　菅専助　中村漁眼

二ツ目毒酒の段　三ツ目鷹野の段　四ツ目經世屋敷　六ツ目源左衛門切腹　七ツ目口ちよんがれ　七ツ目切勇助内　八ノ切城之助の段

◎讀切講釋　伊賀越乘掛合羽　七五　安永六年三月廿六日　北堀江市の側芝居　近松東南

圓覺寺　切丹右衛門使者

○糸櫻本町育　五　安永六年三月十一日　江戸外記座　紀上太郎　補助　達田辨二

糸屋の段　綱五郎内の段　行德村の段　小石川の段

◎伊勢音頭戀寐劍　五　天保九年七月廿五日稲荷東芝居　近松德叟、添作團平妻女加古千賀女

古市油屋の段

◎幕末巷談色模様維新の魁　七　昭和二年七月十四日京都八阪倶樂部にて公演　京都　石井琴水

上中下とあり、此時上と中とを公演す、

上卷の口三條繩手　繩手吉松柳の間の段
野澤八助作曲　野澤吉貞　豐竹駒尾太夫　同奥　竹本陸路太夫　同　野澤八助

中卷の口祇園夜櫻の段　豐竹照太夫　野澤稲丸　祇園月見町の段　竹本源路太夫　豐澤猿二郎

昭和三年七月大阪本町實業會館にて上卷二編を演ず

は　の　部

◎博多小女郎浪枕　七五　享保三年十一月廿日　竹本座　近松門左衛門

下の關船の段　上ノ切揚屋の段

○清水清春 清水清玄 **花系圖都鑑** 七五 寶暦十二年三月廿一日京都蛭子屋座 近松半二 三好松洛他三名
五ツ目北山の段　七ツ目船岡舘の段

◎鐘は上野か淺草か **花雲佐倉曙** 七五 嘉永五年九月道頓堀竹田の芝居 佐久間松長軒 登與島玉和軒
上ノ卷宿屋の段　中ノ卷宗五郎子別れ　下ノ卷牢屋の段

◎**箱根靈驗躄仇討** 七五 京 八月四日 和元年 司馬芝叟
五ツ目順慶屋敷　六ツ目くらがり峠　七ツ目筆助住家　八ツ目鶴ヶ岡
九ツ目新左衛門屋敷　十ノ口小家の段　十ノ切餞別の段　十一瀧の段

○五條阪のかぎりは建仁寺の陀羅尼 **番場忠太紅梅籠** 七五 寶暦十三年十二月八日 豐竹座 若竹笛躬 中邑阿契
四ノ口夢判じの段

◎**播州皿屋敷** 七五 寛保元年七月十五日 豐竹座 爲永太郎兵衛 淺田一鳥
鐵山屋敷　增補此太夫場　同二平住家

◎みのや三勝 茜屋半七 **艶容女舞衣** 七五 安永元年十二月廿六日 豐竹座 竹本三郎兵衛 豐竹應律 八民平七

五ッ目長町の段　六ッ目二ッ井戸段　増補　湊太夫場　酒屋の段

○**花擽會稽褐布染** 七五 安永三年八月三日 豐竹派北堀江座 菅専助 若竹笛躬

四ッ目官治郎腹切　六ッ目船上りの段　八ッ目式部屋敷

○**博多織戀錦**（もと） 寛政元年五月九日 北堀江座 菅専助 中村魚眼

中ノ巻小松屋の段　下ノ巻御所車

◎小田の幼君 北畑の名君 **八陣守護城** 七五 文化四年九月十日 道頓堀大西芝居 佐川藤太 中村魚眼

三册目南巖寺　四册目毒酒の段　六册目此村屋敷　八册目政清本城　九册目遠雲諫玄　十册目次郎作住家

◎金比羅利生記 **花上野誉の石碑** 七五 天明八年八月廿一日 江戸肥前座 司馬芝叟 筒井半平

四ッ目志度寺の段　七ッ目品川の段

◎競伊勢物語（はなくらべ）　七五　安永四年四月五日中の芝居にて　奈河龜助

○南窓里見八犬士梅魁（はなのあに）苔八總　天保七年七月廿五日稲荷境内芝居　添作　山田案山子

に の 部

○素盞嗚尊日本振袖始　七五　享保三年二月廿二日竹本座　近松門左衛門

序ノ切御殿の段　二ノ切鶴蒔御殿の段　三ノ切蘇民住家　四ノ切鳥上ケ嶽
五ノ切大蛇退治

◎日蓮上人御法海　はその部にあり

◎日本賢女鑑　七五　寛政六年十月十三日北堀江座　近松やなぎ　近松松助

佐々木住家　紅賣りの段　木津守舘　増補九　比良の焼打　片岡忠義

◎日露戰爭　梅原健三住家之段　五　不詳

ほの部

◎本朝廿四孝

七五　明和三年正月十四日　竹本座　近松半二竹本三郎兵衛三好松洛他三名

序ノ切鑾晴館　二ノ口百度參り　二ノ切勝頼切腹　三ノ口桔梗ヶ原　三ノ中景勝下駄　三ノ切勘助住家　四ノ口百物語り　四ノ切十種香

○北條時頼記

七五　享保十一年四月八日　豐竹座　西澤一風　並木宗助　安田蛙文

四ノ切時頼發心　五ツ目鉢の木

○本卦復昔暦

五　明和八年十二月廿五日　北堀江座　中邑阿契　北脇素人　梁塵軒

在所岡崎村の段（大經師ともいふ）　增補大經師の段

◎法然上人惠月影

大正十五年十一月六日　公演御靈文樂座　岡山縣久米郡誕生寺漆間松雨山人德定師

秦氏愛別の段（駒太夫　才治）　上人親鸞聖人御流罪の段（竹本津太夫　鶴澤道八）　此興行非常の成功大入りなりしが同年十一月廿八日打上げ翌廿九日午前同座より出火全座全燒せり

へ の 部

○平家女護島　七五　享保四年八月十二日　竹本座　近松門左衛門
二ノ切蜑名殘の段

と の 部

◎東海道四谷怪談　五　鶴屋南北
伊右衛門内の段

ち の 部

○兒源氏道中軍記　七五　延享元年三月六日　竹本座　竹田出雲　三好松洛　竹田小出雲
二ノ切切込の段　三ノ切春駒の段

◎近頃河原の達引　七五　天明三年三月十五日　北堀江座　中村重助
堀川の段

○忠臣後日噺　安永元年四月七日　北堀江座　中邑阿契　若竹笛躬　他二名

○小栗判官横山郡司　忠臣金短册　享保十七年十月朔日　豐竹座　並木宗助　小川文助　安田蛙文

忠臣蔵はこれより出づ

○風雅でなし洒落でなし　忠臣一力祇園曙　七五　寛政十年八月十五日豐竹座　司馬芝叟

勘平住家　子供あそび川狩の段　平吉出世、宮内屋敷

◎蝶花形名歌島臺　はての部にあり

◎中　將　姫　はひの部にあり

◎忠臣二度清書　五　寛政十年三月十一日　烏亭焉馬

寺岡切腹　増補孝行酒屋　増補天川屋の氏太夫塲　増補植木屋の段

（備考　義臣傳後日講釋寺岡殉死も寺岡切腹と同一なりと）

りの部

◎姫小松子日遊増補　二ノ切盤なまり　**立春姫小松**　七五　安永九年正月七日　竹本座　吉田冠子　青江堂　原羽裳

をの部

○**小栗判官車街道**　七五　元文三年八月十五日　竹本座　千文　前耕　軒堂

三ノ口曲馬の段　三ノ切毒酒の段

◎**近江源氏先陣舘**　七五　明和六年十二月九日竹本座再興　近松半二、三好松洛　竹本三郎兵衛、八民平七、近松東南、竹田新松、松田才二

三ツ目中花うりの段　六ツ目四斗兵衛内　七ツ目坂本陣所　八ツ目口和田兵衛使者　八ツ目切盛綱舘　九ツ目口大服中　九ツ目切佐々木内之段

◎**おそめ久松**は新版歌祭文に在り

○女殺油地獄　七　享保六年七月十五日　竹本座　近松門左衛門

○小野道風青柳硯　七五　寶暦四年十月十三日　竹本座　竹田出雲、吉田冠子、近松半二、中邑閏助、三好松洛

序切角力の段　二ノ口相合傘　口ノ次蛙の段　二ノ中ほくろの由來　二ノ切勘當の段　三ノ切歌字づくし　四ノ中お縫髱路

◎江戸文七等結大阪文七紺屋男作五雁金　七五　寛保二年七月二日　竹本座　竹田出雲

二ツ目吳服屋の段　三ツ目砂原兵法　五ツ目炭火の段　六ツ目紺屋の段

○太平記綱目大塔宮曦鎧（あさひ）　七五　享保八年二月十七日　竹本座　竹田出雲　松田和吉　添削者近松門左衛門

二ノ口陣太鼓　三ノ切身替り音頭

◎お染久松染模様妹脊門松はその部にあり

○おはつ徳兵衛曾根崎模様はその部にあり

「往古曾根崎村噂」としてむの部にもあり

○大江山酒呑童子　七五　安政元年三月　新築地清水町濱　未　詳
序ノ切矢瀬の里　二ノ切頼光館　三ノ切保昌屋敷　四ノ切渡邊屋敷

◎長右衛門（おはん）桂川連理棚　はかの部にあり

◎傳兵衛（おしゆん）近頃河原達引　はちの部にあり

○徳兵衛（おはつ）曾根崎心中　七　元祿十六年五月七日　竹本座　近松門左衛門

○徳兵衛（おふさ）心中重井筒　七五　近松門左衛門
下ノ卷意見の段　備考　しの部に「心中重井筒」とあり

◎半兵衛（おちよ）心中宵庚申　七五　享保七年四月廿二日　竹本座　近松門左衛門
中ノ卷在所の段　下ノ卷八百屋の段

○小田館雙生日記　五　明和七年八月十一日京四條の芝居　菅　専　助
五ツ目玉垣檢使　七ツ目治郎作住家

○お　六　櫛は信州お六櫛としてしの部にあり

○おさん茂兵衛　昔　暦はほの部「本卦復昔暦」にあり

○近源氏　鳩湖高名硯　五　寛政十二年十二月道頓堀東芝居　近松湖水軒　近松梅枝　近松柳軒　添作者
十一冊目おかれ恩愛の段

○織合團七島（増補）　五　天明七年六月十八日　竹本座　不　詳
六ノ口新町の段　六ノ切揚屋の段

○小　倉　色　紙はけの部にあり

○おなつ清十郎　笠物狂　寶永二年十一月廿一日　竹本座　不詳

○おなつ清十郎　色直當世鹿子　天明二年九月廿七日　竹本座　近松加作　近松半二　田村千前

わの部

◎和田合戰女舞鶴　七五　元文元年三月四日　豐竹座　並木宗輔

門破りの段　市若腹切の段　阿奢梨の段　小倉山の段

かの部

◎假名手本忠臣藏　七五　寛延元年八月十四日　竹本座　竹田出雲、三好松洛、並木千柳

鶴ヶ岡の段　桃ノ井館の段　鹽治館　鐵砲場、勘平腹切ノ段　茶屋場の段　山科の段　天河や人形廻しの段　天河屋の段　夜討の段　光明寺燒香場（參考八ッ目旅路の嫁入道行景事に在）　以下作者不詳　增補本藏下屋敷の段　同赤垣出立の段　同彌作餘腹の段

○古今追善沙汰敵討崇禪寺馬場　七五　寶暦八年三月十五日竹本座　松近半二、三好松洛、吉田冠子外四名
四ツ目墓所の段

◎敵討優曇華龜山　七五　寛政六年十月十九日　司馬芝叟
三ツ目濵松茶屋　四ツ目金谷の宿　七ツ目重太郎屋敷　八ツ目遠州屋　十段目赤堀屋敷

◎敵討襤褸錦　七五　元文元年五月十二日竹本座　文耕堂　三好松洛
中ノ卷口出立場　中ノ切身賣の段　下ノ切大安寺の段

◎金比羅御利生記敵討稚物語　七五　明和元年七月十五日竹本座　近松半二　竹本三郎兵衛
兵庫舟宿の段　備考　增補百度平氏太夫場

◎加々見山廓寫本　七五　寛政八年一月廿九日　中村魚眼
又助住家

○河内國姥火　七　正德三年正月二日　竹本座　松田和吉

○讐報春住吉（天下茶屋）　七五　寛政八年正月二日　人形屋の段　奈川支干助、松井亭門人筒東喬

○桂川連理柵　七　安永元年七月十八日　帶屋の段　近松東南

○釜淵雙級巴　七五　元文二年七月廿一日　豐竹座　竹びやうたん　五郎市愁　刀賣りの段　釜入りの段　並木宗輔

○苅萱桑門筑紫轢（いくし）　七五　享保二十年八月十五日　豐竹座　二ノ切繁氏書置　三ノ切ゐもり酒の段　五ツ目高野山の段　並木宗輔　並木丈助

○助六揚卷紙子仕立兩面鑑　七五　明和五年十二月廿一日　北堀江座　大文字屋段　菅專助

◎鎌倉三代記　七五　享保三年正月二日　豐竹座　紀海音
分散大名　大筒の段　米あらひの段　三浦わかれの段

○おふさ徳兵衛　重井筒　はをの部にあり

◎加々見山舊錦繪　五　天明二年正月二日　江戸外記座　容揚黛　差添人　飯沼近助
ぞうり打　長局の段

○高名硯　五十一冊　「おかね恩愛」はをの部にあり

よの部

◎義經千本櫻　七五　延享四年十一月十六日　竹本座　竹田出雲　三好松洛　並木千柳
序ノ切川越使者の段　二ノ切大物浦の段　三ノ口茶店の段　三ノ切すしやの段　四ノ中狐の段

○用明天皇職人鑑　七　寶永二年十一月　竹本座　近松門左衛門

○吉野都女楠　七　正德元年九月十日　竹本座　近松門左衛門
備考初めてこれを丸本七行にして前の當り作をも七行とする

○義仲勳功記　七五　寶暦六年三月十八日　豐竹座　淺田一鳥　黑藏主　七才子　豐竹應律　難波三藏
二ノ切すけ長物語　三ノ切地藏經の段

○賴政扇子芝　七　寶暦元年七月十五日　豐竹座　西澤一鳳
◎義經腰越狀　七五　寶暦四年七月廿九日　豐竹座　千蕗莊主人
二ノ切目貫屋　三ノ口三番叟　三ノ切泉の三郎館の段

○宵庚申艶咄　五　安永八年十二月九日　北堀江座　不詳
八百屋の段　（色噺庚申待とも云ふ）

たの部

◎壇浦兜軍記　七五　享保十七年九月九日　竹本座　文耕堂　長谷川千四
三ノ口阿古屋學貴の段

◎おさん茂兵衛　**大經師昔暦**　七五　正德五年春　竹本座　近松門左衛門

在所岡崎村　增補大經師の段

○**平惟茂凱陣紅葉**　七五　寶暦六年十月十五日　竹本座　竹田出雲、近松半二、三好松洛他三名

曲水の段

◎**太平記忠臣講釋**　七五　明和三年十月十六日　竹本座　近松半二　三好松洛、竹本三郎兵衛他三名

三ツ目義士のかため　四ツ目口白川けいこ場　四ツ目切學の段　六ツ目辻君の段

七ツ目喜内住家　八ツ目口宅兵衛上使　八ツ目切大星出立

○**大内裏大友眞鳥**　七五　享保十年九月十八日　竹本座　竹田出雲

二ノ切助八急道の段　三ツ目御殿の段　四ノ口濵邊の段　四ノ切　三笠村の段

○公時老武者　公平若武者　**丹州爺打栗**　七五　寛保三年五月十八日竹本座　竹田小出雲　三好松洛

二ノ切雪の段

○南朝正平四年北朝貞和五年　太平記菊水の巻　七五　寶暦九年九月十六日竹本座　竹田小出雲、二歩堂近松半二、北窓後一、竹本三郎兵衛、三好松洛

二ノ切紺屋の段　三ノ中石堂舘の段

◎田村麿鈴鹿合戰　七五　寛保元年九月十日豐竹座　淺田一鳥　豐田正藏

平治住家の段　備考「勢州阿漕浦」鈴鹿合戰はこれの改題なり

◎起請方便品書置壽量品　伊達娘戀緋鹿子　七五　菅專助　松田和吉　若竹笛躬

玉子酒の段　寺の段の切　八百屋の段　鈴ヶ森の段

◎道成寺現在蛇鱗（うろこ）　七五　享保二年八月十一日豐竹座　並木宗輔　淺田一鳥

日高川道成寺の段

○道中龜山噺　七五　安永七年七月十七日北新地芝居　近松半二

四ツ目刀屋人形箱　六ツ目八ツ橋村

○團七編 五

六ノ口新町　（六ノ切揚やの段はなの部）

○當流小栗判官　元祿十一年二月十四日　竹本座　近松門左衛門

◎繪本増補　玉藻前曦袂（あさひ）　文化三年三月廿六日御靈境内芝居　梅枝軒　佐藤太

天竺蘭亭　化粧殿　道春館　十作住家の段

◎高杉晋作　昭和五年二月八日　竹本源福太夫

望東尼庵室の段

○高山彦九郎　昭和三年十月　華頂會館　石井琴水

その部

◎久松（おそめ）染模様妹脊門松　七五　明和四年十二月十五日　北堀江芝居　菅専助

質店の段

○おはつ徳兵衛　曾根崎模様　七五　寶暦十一年五月十八日　豐竹座　若竹笛躬　淺田一鳥　黑藏主　他二名
帶屋の段

◎增補累物語　七　不詳
與右衛門内　絹川堤　埴生村

◎增補日蓮上人御法海　七五　寶暦元年十月十日　豐竹座　並木正三　並木鯨兒　添作者　淺田一鳥　並木宗輔
彌三郎内　勘作内の段

○曾根崎心中　七　元祿十六年五月七日　竹本座　近松門左衛門

つの部

○後太平記四十八卷　津國女夫池　五　享保六年二月十七日　竹本座　近松門左衛門
三ノ切文治平内の段

○清少納言藤原行成 芽源氏鶯塚（つのぐむ） 寶暦九年三月三日 豐竹座 淺田一鳥 豐竹應律 中邑阿契 黑藏主 七才子

な の 部

○鈎船三婦一寸徳兵衛 夏祭浪花鑑 七五 延享二年七月十六日 竹本座 並木千柳 三好松洛 竹田小出雲

團七九郎兵衛 四ツ目道具屋の段 六ツ目三婦内の段 七ツ目長町うら 八ツ目團七達引

○那須與市西海硯 七五 享保十九年八月十三日 豐竹座 並木宗輔 並木丈助

三ツ目化粧屋敷

○長町女腹切 正徳二年 竹本座 近松門左衛門

○夏浴衣清十郎染 安永七年十二月廿一日 北堀江座 菅專豐 春助

○涙の法廷 昭和四年十二月廿日 玉水倶樂部 文樂座 照太夫

らの部

○蘭奢待新田系圖　七五　明和二年二月九日　北の新地芝居竹本座　近松半二他二名
二ノ切義貞館　三ノ切寺内住家段　四ノ口住吉の段　四ノ切七夕祭りの段

むの部

○おはつ徳兵衛往古曾根崎村噂　七五　安永七年九月　近松半二　近松善平
上卷河堀口　上卷切敎興寺の段

◎孃景清八島日記　七五　明和元年十月廿一日　豐竹座　若竹笛躬　黑藏主中邑阿契
三ノ口花菱やの段　三ノ段日向島の段

うの部

◎梅野由兵衛 聚樂町の段 **迎駕籠死期茜染** 五 明和八年八月十四日豐竹座 竹本三郎兵衛 寺田兵藏

◎梅川忠兵衛 **冥途飛脚** はめの部にあり

の の 部

◎乃木大將 玉川村の段 **國乃華大和櫻木** 大正二年十月 近松座 小野タイ華

く の 部

◎**楠昔噺** 七五 延享三年正月十四日 竹本座 並木千柳三好松洛 竹田小出雲 三ノ口どんぶりこ 三ノ切端午節句

○**軍法富士見西行** 七五 延享二年二月十三日 竹本座 並木千柳、竹田小出雲、小川半平 墨染櫻 二ノ切ゆきへ内の段 增補音太夫塲 三ノ切うつし繪愁の段

○關八州繫馬　七　享保九年正月十五日　竹本座　近松門左衛門

○廓景色雪茶會　七五　天明七年九月廿六日　道頓堀東の芝居　不詳　若竹笛躬、梅野下風他一名

九ツ目かやのむらの段　備考　さの部にもあり

○久米仙人吉野櫻　七五　寛保三年八月一日　豐竹座　爲永太郎兵衛

春風の段　豐勝住家　いわやの段

○國言詢音頭　七　天明八年　北新地　不詳

下ノ巻五人切りの段

や の 部

○日本歌竹取物語　七　安永六年二月一日　竹本座　八民平七、竹田新四郎、苣源七

○山崎與次兵衛 壽の門松 七 享保三年正月二日 竹本座 近松門左衛門
上ノ卷新町の段 中ノ卷將棋の段

○八重霞浪花濱萩 七五 寛延二年三月十六日 豐竹座 淺田一鳥、安田蛙桂、他二名
二ツ目若林尾 三ツ目評議の段 四ツ目新やしきの段

◎宿無團七時雨傘 五 明和五年七月十五日 竹田芝居 並木正三
下ノ卷岩井風呂の段

○奴請狀 五 はさの部にあり
三ツ目桃山御陵の段

○大和國茜染 五 年代不詳文化八年七月二十九日北新地の芝居に初出演を見ゆ
玉子酒の段

◎八百屋お七戀緋櫻　五　享保十七年正月廿日豐竹座　紀海音
八百屋の段

まの部

○松風村雨束帶鑑　元祿七年三月三日竹本座　近松門左衛門

けの部

◎源平布引瀧　七五　寛延二年十一月廿八日竹本座　並木千柳　三好松洛
二ノ中藏人文箱の段　二ノ切義賢切腹の段　三ノ切綿操り馬の段　四ノ中三人上戸　增補三人上戸松波琵琶の段（現今の語り物）

◎傾城反魂香　七五　寶永五年竹本座　近松門左衛門
備考　上卷の切の增補吃又平の段

◎傾城阿波鳴門　七五　明和五年六月一日竹本座　近松半二、竹田文吉、八民平七、寺田兵藏、竹本三郎兵衛
八ッ目順禮の段　上卷餅搗の段　切新町揚屋の段

○忠臣の名譽白狐の靈德 **契情小倉色紙** 七五 天保十一年正月稲荷境内 山田案山子 春の屋有齋
三ノ切年人住家　四の切小平次内の段

○**傾城戀飛脚** 七五 安永二年十二月廿三日 曾根崎新地芝居 菅専助 若竹笛躬
亀屋の段　新口村の段

○正保四年 **粧水絹川堤** 明和五年二月十五日 東勇助

ふの部

◎**双蝶々曲輪日記** 七五 寛延二年七月廿四日 竹本座 竹田出雲、三好松洛、並木千柳
二ツ目相撲場　四ツ目米屋場　六ツ目橋本の段　八ツ目八幡引窓

○**雙生隅田川** 七五 享保五年八月三日 竹本座 近松門左衛門
三ノ切人買惣太の段

○誕生梅蘇生松　振袖天神記　七五　明和六年正月廿七日　竹本座　近松半二、近松桃南、松田才二、三好松洛

二ノ口是善郷琴の段　三ノ切車牛の段

○風俗太平記　七　寛保三年三月十八日　豐竹座　鳥永太郎兵衛、淺田一鳥、豐岡珍平、小川半平

この部

◎御所櫻堀川夜討　七五　元文二年　文耕堂　三好松洛

二ノ切骨繼ぎの段　三ノ切僧片袖の段（辨慶上使）　四ノ切藤弼太の段

◎國性爺合戰　七五　正德五年十一月一日　竹本座　近松門左衛門

二ノ口鳴蛤の段　二ノ切千里竹の段　三ノ口樓門の段　三ノ切甘輝館の段

◎極彩色娘扇　七五　寶暦十年七月廿一日　竹本座　近松半二、竹本三郎兵衛、三好松洛他二名

五ツ目片町の段　八ツ目口兵助内の段　八ツ目切增井の段

○戀女房染分手綱　七五　寛暦元年二月一日　竹本座　三好松洛　吉田冠子

三ツ目與作勘當の段　四ツ目重の井訴訟の段　六ツ目切沓掛村

七ツ目阪の下　十段目子別れの段

○姉は宮城野妹は信夫　碁太平記白石噺　七五　安永九年正月二日　江戸外記座　左の合作

第一　紀上太郎　第二　容揚黛　第三　烏亭焉馬　第四田植の段　紀上太郎

第五逆井村の段　紀上太郎　第六淺草の段　烏亭焉馬　第七新吉原の段烏亭焉馬

第八屋敷の段　紀上太郎　第九道行の段　紀上太郎　第十　紀上太郎

第十一紺屋の段　紀上太郎

五行本在版　田植の段　逆井村の段　淺草の段　新吉原の段　屋敷の段

十一ノ口紺屋の段　十一ノ切紺屋の段

◎小田の結納才藤の色直　木下蔭狭間合戰　五七　寛政元年二月廿一日　道頓堀大西芝居

へか七聟入　來作住家　竹中砦　壬生村　勅使饗應

並木千柳　若竹笛躬　近松門左衛門　近松余七

○五百番内　嫗山姥　七五　正德二年七月十五日　竹本座

二ノ切たばこやの段（備考八重桐廓話）

○小いな半兵衛　廓色上　七五　明和五年十一月十九日　八民平七
下ノ巻大津質屋の段

◎おなつ清十郎　壽連理松　五　不詳　不詳
上ノ巻堺湊の段　下の巻湊の奥の段

◎戀娘昔八丈　五　安永四年九月廿五日江戸外記座　松貫四　吉田角丸
城木屋の段　鈴ヶ森の段

○五天竺　文化十三年七月二十九日御靈境内　佐藤太　近川梅枝　松軒
昭和四年四月十五日　竹本陸路太夫

◎尾崎紅葉原作　金色夜叉
熱海海岸の段

ゑの部

○役行者大峯櫻　七五　寶暦元年十月十七日　竹本座　竹田外記、近松半二、吉田冠子、竹田文四、三好松洛
二ツ目谷蔵内の段　三ツ目たら助内の段

◎繪本大功記　七五　寛政二年七月十二日　近松柳、近松湖水
本能寺　局注進　妙心寺　杉の森　夕がほ棚尼ヶ崎　道頓堀若太夫芝居　軒、近松千葉軒

てのの部

○前篇　後篇　山城國畜生塚　天竺徳兵衛郷鏡　七　寶暦十三年四月十三日　竹本座　近松半二　竹本三郎兵衛

◎類葉嫁君は平家の落人　蝶花形名歌島臺　七五　寛政六年七月十五日豐竹派　若竹笛躬　中村魚眼
鐵砲屋　門戸兵衛住家　小阪部の段

◎思想善導　梅花魁　天理教祖傳　七　昭和四年八月十五日　京都同教師　藤井天海
中山善兵衛内の段　松山要住家の段

あの部

○赤松圓心緑陣幕　七五　元文元年二月朔日　竹本座　文耕堂　三好松洛

四ノ中本間館の段　四ノ切檀風祈りの段

◎奥州安達原　七五　寶暦十二年九月十日　竹本座　近松半二　他三名

二ノ切宗任物語の段　三ノ切袖萩祭文の段　四ノ切一ツ家の段

○愛護若名歌勝閨　七五　寶暦三年五月五日　竹本座　近松半二、三好松洛、吉田冠子外二名

中ノ巻鞍打屋の段　下ノ巻三井寺の段

◎蘆屋道滿大内鑑　七五　享保十九年十月十五日　竹本座　竹田出雲

序ノ切保のり節　四ノ口狐の別れ　四ノ中後の別れ　四ノ切與勘平

○茜染野中隱井　七五　元文三年十月八日　豐竹座　原田由良助　添削者並木宗輔

梅ノ由兵衛内

○東鑑御狩卷　七五　寛延元年七月十五日　豐竹座　並木丈輔、安田蛙柱、淺田一鳥

三ノ切朝比奈の段　四ノ口角力の段

○遠州夜泣石山州奴茶屋惡源太平治合戰　七五　延享四年七月十六日豐竹座　並木周藏　安田蛙桂　淺田一烏

四ノ口おどりの場

◎近江源氏先陣舘はをの部にあり

さ　の　部

○小夜中山鍾由來　七五　明和三年七月十八日　竹本座　近松半二、竹本三郎兵衛、三好松洛、他四名

五ツ目眞葛が原　七ツ目夜泣石　九ツ目鑄物師の段

○清水清玄櫻姫賤姫櫻　七　寶暦十年三月十一日　豐竹座　若竹笛躬、豐竹應律、中邑阿契

◎三勝半七はは・の部

○廓景色雪の茶會　七五　天明七年九月廿六日道頓堀東の芝居　若竹笛躬　丹青堂　梅野下風
九ツ目かやのむらの段

○廓訛潮來畫艸紙　五　文化六年正月十一日　大西芝居　中村漁眼　近松湖水軒
おすま身賣の段　左門隱れ家の段　甚内住家の段

○三國無雙奴請狀　五　安永五年四月三日　北堀江座　近松東南　安田阿契　吉田角丸
三ツ目桃山御殿の段　四ノ切關所の段

○源平太堤三拾石燈始　七五　寛政四年五月廿二日　豐竹派　やなぎ事近松柳作
上使の段

◎櫻鍔恨鮫鞘　五　安永二年十一月廿二日　豐竹座　不詳
古手屋八郎兵衛　うなぎ谷の段

◎花の山觀音靈驗記　五　明治八年　添作　福地櫻痴　加古千賀女　節付豐澤團平
壺坂澤市内より御山の段　二月堂長辨杉の由來（備考千賀女は團平の妻女なり）

○さくら時雨　明治卅一年　京都の文士　堀江座　高安月郊
竹本伊達太夫（現今の土佐太夫）語り好評なりしと

○最後城山　七　昭和三年七月公演　東區本町實業會館　竹本龜久太夫

○阪本良馬　大正十四年五月　竹本源福太夫
寺田屋の段

き の 部

○京羽二重娘氣質　七五　明和元年五月廿八日　竹本座　近松半二　竹本三郎兵衛
七ツ目刀屋の段

○菊池大友姻袖鏡　七五　明和二年九月十二日　竹本座　近松半二　三好松洛　竹本三郎兵衛　竹田平七　他二名
四册目宗玄庵室の段

◎鬼一法眼三略卷　七五　享保十六年九月十三日　竹本座　文耕堂　長谷川千四

二ノ切鬼若丸の段　三ノ切菊畑の段　四ノ切揚弓の段

○京土産名所井筒　享保十四年十一月廿五日　竹本座　長谷川千四

古今重三假橋の段

◎祇園祭禮信長(仰)記　七五　寶暦七年十二月五日　豐竹座　中邑阿契　豐竹應律　黒藏主　三津飲子　淺田一鳥

室町館、割普請けし畑、上かんや、輝若丸の段、天下茶屋　風呂屋、其場、爪先鼠

◎三十三間堂平太郎縁起　祇園女御九重錦　七五　寶暦十年十月十一日　豐竹座　若竹笛躬　中邑阿契

お柳わかれ　彌正平の段　増補卅三間堂平太郎内

◎岸姫松轡鑑　七五　寶暦十二年四月十八日　豐竹座　豐竹應律　淺田一鳥　若竹笛躬　黒藏主　福松　藤助　並木永輔

順禮の段　仮原兵衛　同壇補染太夫場

◎假名手本 義士書添 八ツ目寺岡切腹 五 享和三年八月十九日 賀雀堂 屏風裏形

○畜生塚の因縁 大佛餅の由來 金門五三桐 天保四年正月二日 稲荷境内芝居初演 添作 山田案山子 並木五瓶

ゆの部

◎由良港千軒長者 七五 寶暦十一年五月十六日 竹本座 中ノ卷扇の橋の段 中ノ卷中 山の段 中卷ノ下 鶏娘の段 竹田小出雲、近松半二、二歩堂北窓俊一、三好松洛、竹本三郎兵衛

○融通大念佛 七五 文化八年四月廿六日 稲荷芝居 上ノ卷亀井太郎内の段 下ノ卷幽霊の片袖 佐川藤太、添作 吉田新吾

◎夕霧曲輪文章 五 安永九年成り寛政六年五月廿八日 大西芝居 揚屋の段 不詳

めの部

◎名筆傾城鑑　七五　寶暦二年三月廿三日　竹本座　三好松洛、中邑閏助、吉田冠子
四ッ目吃又平の段　大門口相の山の段

◎奥州秀衡遺跡爭論伽羅先代萩　七五　天明五年正月　江戸結城座　松貫四、高橋武兵衛、吉田角丸
船遊びの段　竹の間の段　政岡忠義　御殿氏太夫場

◎梅川忠兵衛冥土飛脚　七五　正德元年三月五日　竹本座　近松門左衛門
新町の段　增補　淡路町の段

○白井權八幡隨院長兵衛驪山比翼塚　七五　安永八年七月七日　江戸肥前座　森羅萬象、源平藤橘、海一洙、吉田鬼眼、達田辨二
增補幡隨院内の段

◎祐天僧正絹川谷藏薫樹累物語　五　不詳
さうふやの段　埴生村の段　累殺しの段

み の 部

○三浦大助紅梅靭（たづな） 七五 享保十五年二月十五日 竹本座 長谷川千四 文耕堂

三ノ切二つ胴の段 備考 石切楫原の原作

◎三日太平記 七五 明和四年十二月十四日 竹本座 近松半二、三好松洛、竹本三郎兵衛 八民平七

五ッ目本能寺 九ッ目松下住家の段

し の 部

○新うすゆき物語 七五 寛保元年五月十六日 竹本座 文耕堂三好松洛、竹田小出雲、小川半平

上ノ巻清水寺 中ノ巻園邊舘 下ノ巻鍛冶屋場

○時代織室町錦繡 七五 寛政六年八月十五日北新地芝居 不詳

六ッ目嘉平次住家の段

○釋迦如來誕生會　七　元祿八年四月八日　竹本座　近松門左衛門
天明元年四月二日改元

◎久松（おそめ）新版歌祭文　七五　安永九年九月廿八日　竹本座　近松半二
上ノ卷野崎村　下ノ卷油屋めし椀の段

○信州川中島合戰　七五　享保六年八月三日　竹本座　近松門左衛門
二ノ口勘助庵　三ノ口輝虎配膳　三ノ切直江舘

◎心中紙屋治兵衛　七五　安永七年四月廿一日　北の新地西の芝居　近松半二　竹田文吉
上ノ卷茶屋の段　紙屋ちょんがれ

◎紙屋治兵衛紀の國屋小春心中天網島　七五　享保五年十二月六日　竹本座　近松門左衛門
紙屋の段　備考　增補時雨炬燵

○十帖源氏物ぐさ太郎　七五　寛延二年十一月四日　豐竹座　淺田一鳥、安田蛙桂、豐丈助、豐正助、難波三藏
町づくし　利休茶の場　竹鐘の段

○四天王寺伶人櫻　七　明和六年二月廿四日北堀江座　中邑阿契

○歌舞伎精巧戲棚之修飾自來也物語　七五　文化六年八月廿二日道頓堀角座　並木春三　芳井平八

七ツ目長兵衛内の段　八ツ目自來也住家の段

○呪文の陣取名歌の初戀敷島操軍記　七五　明和二年三月十六日豐竹座　豐竹鷹律　並木齋治

二ノ切多田御殿の段　三ノ切伏見軍の段　四ノ切花園長者

○物部守屋聖德太子四天王寺伽藍鑑　七五　寶暦七年四月六日　並木正三、秋田正平、松田百花　並木翁助

善光住家　飛駄の内匠

◎神靈矢口渡　七五　明和七年正月十六日江戸外記座　福内鬼外、吉田冠子、玉泉堂、吉田二一

八郎物語　兵庫やしき　同身替の段　頓兵衛住家　渡し場

○德兵衛心中重井筒　七五　寶永四年十一月十八日竹本座　近松門左衛門

下ノ卷意見の段

大阪朝日新聞懸賞
○聚樂榮華　七　大正十一年　高野山　御靈文樂座　井村米佛
故豐澤廣助節付　上卷　竹本叶太夫　鶴澤叶　下卷　竹本津太夫　鶴澤友治郎

○潤色焰土藏　昭和三年十二月　京都倶樂部　石井琴水

ひの部

○比良嶽雪見陣立　七五　天明六年六月五日　道頓堀東の芝居　芝屋芝叟　梅野下風
三ノ仲達目鏡の段　三ノ切座蛍の段

◎ひらかな盛衰記　七五　元文四年四月十一日　竹本座　文耕堂、三好松洛　千前軒他二名
序ノ中義仲舘　序ノ切聚津合戰　二ノ切源太勘當　三ノ口宿屋笹引
三ノ切福島さかろ　四ノ口辻法印　四ノ切揚屋の段

◎姫小松子日遊　七五　寶暦七年二月一日　竹本座　三好松洛、近松半二、他三名
二ノ中赦免狀　三ノ切俊寛物語

◎彦山權現誓助劍　七五　天明六年十月十八日　近松保藏　梅野下風

五ツ目一味齋屋敷　六ツ目お菊返り討　七ツ目瓢箪棚　九ツ目六助住家

○蛭小島武勇問答　七五　寶暦八年八月十九日　竹本座　近松半二、吉田冠子、三好松洛、竹田瀧彦竹田小出雲

四ノ中鎧させの段

◎日高川入相花王　七五　寶暦九年二月一日　竹本座　竹田小出雲、近松半二、二歩堂、竹本三郎兵衛北窓後一

二ノ切錦木塚の段　三ノ切純友物語の段　四ノ切清姫嫉妬の段

◎大和女四國女鶴山姫捨松　七五　元文五年二月六日　豐竹座　並木宗輔

三ノ切雪ふりの段　增補雪實の段

◎日吉丸稚櫻　七五　享和元年十月四日豐竹派北堀江市の側芝居　近松やなぎ、同加造、同萬壽、同梅枝軒

二ノ切茶碗屋の段　三ノ切吾郎助住家　四ノ切つゝじが嶽

○鄙島原由緒菊水　五　文化十一年十月七日　道頓堀若太夫芝居　不詳
六ツ目岩倉の段　七ツ目菊谷の段

○東山殿室町合戰　五　享保七年十一月一日　豐竹座　不詳
山名宗全館の段

○おかめ與兵衛緋縮緬卯月紅葉　寶永三年二月一日　竹本座　近松門左衛門

もの部

○紅葉狩劍本地　七五　寶永六年九月九日　竹本座　近松門左衛門
三ノ切戈屋の段

○持丸長者金簪劍　五　寛政六年三月二日　近松やなぎ
二ノ切新兵衛内の段

せの部

◎關取千兩織　七五　明和四年八月四日　竹本座　近松半二、三好松洛他四名
二ツ目猪名川内の段　増補　猪名川角力の段

◎攝州渡邊橋供養　七五　寛延元年十一月十四日　豐竹座　淺田一鳥、豐丈助　安田蛙柱
三ノ切夢わら笠　四ノ口闘寛堂の段　四ノ切學の段

◎攝州合邦辻　七五　安永二年二月五日　北堀江座　菅專助　若竹笛躬
合邦内の段

○清和源氏十五段　七五　享保十二年二月十五日　豐竹座　並木宗輔　安田蛙柱
五ツ目山伏接待の段

○攝津國長柄人柱　七五　享保十二年八月十五日　豐竹座　並木宗輔　安田蛙文
四段目岩次内の段

◎關取二代鑑　七五　寛政九年二月十五日道頓堀東の芝居　不詳

秋津島遠引　備考「關取二代勝負附」と同一の内容なりと

◎勢州阿濃浦鈴鹿合戰　はたの部にあり

備考　田村磨鈴鹿合戰

すの部

◎須磨都源平躑躅　七五　享保十五年　文耕堂　長谷川千四

二ノ切扇子屋の段　四ノ切櫻の段

竹田出雲、並木千柳、三好松洛、竹田小出雲

◎菅原傳授手習鑑　七五　延享三年八月廿一日　竹本座

序ノ切傳授場　二ノ中聲の鳥　二ノ切道明寺　三ノ切　佐田村　四ノ口飛梅の段

四ノ切手習子屋の段　増補　松王屋敷の段　同配所の段

○容競出入湊　七五　寛延元年正月五日　豐竹座

並木丈助、豐岡珍平、安田蛙桂、淺田一鳥

下ノ卷ひやうたん町の段

道行と景事の部

○愛護若名歌勝閧　七五　寶暦三年五月五日　竹本座　近松半二、三好松洛、吉田冠子、他二名
道行戀の山道の段　景事山の段

○蘆屋道滿大内鑑　七五　享保九年十月十五日　竹本座　竹田出雲
道行信田二人妻　景事小袖物狂ひ

○東鑑御狩卷　七五　寛延元年七月十五日　豐竹座　並木丈助、安田蛙桂、淺田一鳥
二ノ中　景事紋づくしの段

◎妹脊山婦女庭訓　七五　明和八年正月廿八日　竹本座　近松半二、三好松洛、近松東南　外二名
道行戀のおだ卷

△生寫朝顔話　七五　天保三年正月二日　稲荷社内　山田案山子
道行歸り咲吾妻の路草

△伊豆院宣源氏鑑　七五　寛保元年正月十四日　竹本座　文耕堂、三好松洛、千前軒、小川半平、竹田小出雲

景事住吉物狂ひの段

△今川本領猫魔館　七五　元文五年四月十一日　竹本座　文耕堂、三好松洛、千前軒

小蝶の夢

△小野道風青柳硯　七五　寶暦四年十月十三日　竹本座　竹田出雲、近松半二、三好松洛、吉田冠子他一名

道行家名所

△近江源氏先陣館　七五　明和六年十二月九日　竹本座　近松半二、三好松洛他五名

道行旅路の濡衣

△奥州安達原　七五　寶暦十二年九月十日　竹本座　近松半二他三名

道行千里の岩田帯

△男作五雁金　七五　寛保二年七月二日　竹本座　竹田出雲
道行夢の通ひ路

△敵討優曇華龜山　七五　寛政六年十月十九日　司馬芝叟
道行伊勢參り

◎假名手本忠臣藏　七五　寛延元年八月十四日　竹本座　竹田出雲、三好松洛、並木千柳
道行旅路の嫁入

△敵討襤褸錦　七五　元文元年五月十五日　竹本座　文耕堂　三好松洛
道行蠶の花鰹　正月場百夜のかぞへ歌

◎桂川連理柵　七五　安永元年七月十八日　豐竹座　近松東南
浮名の入もの段　臆の桂川戀の柵の段

◎鬼一法眼三略卷　七五　享保十六年九月十三日　竹本座　文耕堂　長谷川千四
景事　橋辨慶

○楠　昔　噺　七五　延享三年正月十四日　竹本座　並木千柳、三好松洛、竹田小出雲

道行花具賣りの段

○軍法富士西行　七五　延享二年二月十三日　竹本座　並木千柳、竹田小出雲、小川半平

五ツ目景事源平花合戦　道行戀角文字

○古戰場鐘戀松　七五　寶暦十一年十一月廿日　竹本座　近松半二、三好松洛、竹本三郎兵衛、二歩堂、他一名

道行恋賣りの段

○御所櫻堀川夜討　七五　元文二年竹本座　文耕堂　三好松洛

花扇かんたんの枕

◎戀女房染分手綱　七五　寶暦元年二月一日　竹本座　三好松洛　吉田冠子

景事十ノ口道中双六　道行戀路の月毛馬

○新薄雪物語　七五　寛保元年五月十六日　竹本座　文耕堂、三好松洛、竹田小出雲、小川半平

道中戀の遊宿

△自然居士　五　元祿三年正月十四日　竹本座　不詳

道行過去物語

△三荘太夫五人娘　七五　享保十二年八月一日　竹本座　竹田出雲

粟の段

△後三年奥州軍記　七五　享保十四年正月二日　豐竹座　並木宗輔、安田蛙文

松島八景

△菅原傳授手習鑑　七五　延享三年八月廿一日　竹本座　竹田出雲、並木千柳、三好松洛、竹田小出雲

道行詞の甘替

道行と景事ノ部

△清和源氏十五段　七五　享保十二年二月十五日　豐竹座　並木宗助　安田蛙文
忠臣旗揃

△攝津國長柄人柱　七五　享保十二年八月十五日　豐竹座　並木宗助　安田蛙文
葦刈りの段

△攝州渡邊橋供養　七五　寛延元年十一月十四日　豐竹座　淺田一烏、豐丈助、安田蛙桂
御祝歳渡り初　道行雲井玉鉾

△太平記忠臣講釋　七五　明和三年十月十六日　竹本座　近松半二、三好松洛、竹本三郎兵衛
道行人目しげ縫

○平惟茂凱陣紅葉　七五　寶暦六年十月廿日　竹本座　竹田出雲、近松半二、三好松洛他三名
曲水の段

○椀狩劍本地（もみぢがりつるぎのほんぢ）　七五　寶永六年九月九日　竹本座　近松門左衛門

山路の曲水　景事劔の段

○日高川入相花王　七五　寶暦九年二月一日　竹本座　近松半二、竹田小出雲、竹本三郎兵衛

道行思ひの雪吹

○平假名盛衰記　七五　元文四年四月十一日　竹本座　文耕堂、千前軒三好松洛他二名

宇治川先陣物語　揚や無間の鐘

○北條時賴記　七五　享保十一年四月八日　豐竹座　西澤一風、並木宗助、安田蛙文

景事玉豐姫嫉妬　道行くまがへ笠

◎義經千本櫻　七五　延享四年十一月十六日　竹本座　竹田出雲、三好松洛、並木千柳

道中初音の旅

道行と景事ノ部

△用明天皇職人鑑　七五　寶永二年十一月　竹本座　近松門左衛門
鐘の謂れ

△義經新高館　七五　享保四年一月廿日　豐竹座　紀海音
屏風八景

△義仲勳功記　七五　寶暦六年三月十八日　豐竹座　淺田一鳥、豐竹應律、七才子、難波三藏、他一名
枕慈童

△和田合戰女舞鶴　七五　元文元年三月廿四日　豐竹座　並木宗助
道行　戀の松虫　玉の兒櫻

○椀久末松山　五　寶永五年　紀海音
所縁の十德

○花系圖都鑑　七五　寶暦十二年三月廿一日　近松半二、三好松洛、他三名
道中闇路の白妙

○行平磯馴松　七五　元文三年正月廿五日　竹本座　文耕堂、三好松洛　竹田正藏
　　筐の忍摺

○松風村雨束帶鑑　五　元祿七年三月三日　竹本座　近松門左衛門
　　景事うつぼ猿の段

△三國小女郎曙櫻　七五　寶暦五年四月廿一日　豐竹座　難波三藏　豐竹上野
　　女蝶の闇

△武勳天皇艤　七五　元文五年九月十日　豐竹座　爲永太郎兵衛
　　虫賣りの段

○釜ケ淵雙級邊　七五　元文二年七月廿一日　豐竹座　並木宗輔
　　道行　ちまたの手向艸

道行と景事ノ部

○染模様妹脊門松　七五　明和四年十二月十五日　豐竹座　菅　專助
道行　地藏巡りの段

△花禦會稽掲布染　七五　安永三年八月十三日　豐竹派　菅　專助
道行　門芝居　若竹笛躬

○祇園祭禮信仰記　七五　寶暦七年十二月五日　豐竹座　淺田一鳥、中邑阿契、他三名
道行　輝若侍從

○花競四季壽　五　不詳

○酒呑童子出生記　延享三年五月六日　豐竹座　梁塵軒
道行　姿の紅葉

○双蝶々曲輪日記　寛延二年七月廿四日　竹本座　並木千柳、三好松洛、竹田出雲
道行　菜種の亂咲

△音曲奈良名所　不詳　不詳
道行　觀音巡りの段

◎七福神寶の入船　不詳　不詳
道行　名殘りの橋づくし

◎壽式三番叟　不詳　不詳

△曾根崎心中　元祿十六年五月七日　竹本座　近松門左衛門

○心中天網島　享保五年十二月六日　竹本座　近松門左衛門
道行と景事ノ詞

滑稽淨瑠璃の部

○入間詞

持丸長者館の段

國性爺合戰

唐へ宿替の段

假名手本忠臣藏

ちよつつくばいの段

伊賀越道中雙六

武介笑茸の段

七福神寶の入船

むげんの鐘の段

傾城吃又平

鬼の念佛の段

戀女房染分手綱

與作稽古屋の段

阿波の鳴門（魚の鳴戸）

壽藝歌の段

曲（國）性爺合戰

半段目（三段目）

伊勢道中
おかけ参りの段
同
草津の段
あまみ山（加々見山）
のり打の段（ぞり打の段）
矢口渡し
四ノロ　道念狐
菅原傳授
おごけはなしの段
○菅原
のらこやの段
十二支蔵（忠臣蔵）
ロ　かけ合の段
同
（同）
切　虎大盡の段
戯曾我おこや（阿古屋）
白責の段
七里渡
四ノロ　ひやうたんや
七ぐさ（物ぐさ太郎）
笑ひの段

穴手本忠臣藏
やね裏の段

壽式三番叟
謡曲物

御祝儀

草津ノ宿
相生松の段

夜發無間鐘
老婆ケ餅の段

盛衰記

狐の（あしや道滿）
嫁入の段

邯鄲夢の枕（御所櫻）
五十年榮花の段

蛸屋（あこや）
鯛の口　ミヽ責の段

忠臣藏
九半目　山科跡仕廻の段

○膝栗毛（彌次喜多）　盛衰記
並木の段　辻法印の段

御祝儀　朝顔日記
露拂　福笑ひの段　笑ひ薬の段

すこや（あこや）　○白石噺
こそ責段　淺草の段

累物語　非人太閤記
舌切雀の段　尼ヶ崎の段

音曲　三國無雙奴の請狀
ほこりたゝき　關所の段

昭和五年二月廿五日印刷
昭和五年三月二十日發行

編者　宮田蒙人愚

大阪市北區旅籠町三十一番地
發行兼印刷人　宮田吉二郎

前同所
印刷人　樋口虎之助

大阪市北區旅籠町三十一番地
印刷所　鑛業社印刷部

發賣元　鑛業社出版部
振替口座大阪六六九八五番
電話北五七二〇番

涙花名物
淨瑠璃雜誌
昭和五年三月號
第貳百八拾九號附錄

表紙は
故[illegible]を迎へ[illegible]を送る
記念として贈りし橋本氏の
書を寫せるものなり